

令和2年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－4号)

農林総合研究センター
令和2年6月18日調査

気象経過

<平年対比>

新潟地方気象台は、6月11日に「北陸地方は、梅雨入りしたとみられます。」と発表しました。

【平均気温】

- ・6月第2半旬は、金沢、輪島ともにかかなり高い（平年差：金沢+3.1℃、輪島+2.5℃）
- ・6月第3半旬は、金沢、輪島ともにかかなり高い（平年差：金沢+2.4℃、輪島+3.1℃）

【日照時間】

- ・6月第2半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い（平年比：金沢180%、輪島180%）
- ・6月第3半旬は、金沢はかなり少なく、輪島は少ない（平年比：金沢38%、輪島55%）

【降水量】

- ・6月第2半旬は、金沢、輪島ともにかかなり少ない（平年比：金沢3%、輪島0%）
- ・6月第3半旬は、金沢、輪島ともにかかなり多い（平年比：金沢841%、輪島280%）

【1ヶ月予報】

6月18日発表の1ヶ月予報（6月20日～7月19日）では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

生育概況等

【本田の生育】

1. 草丈は、コシヒカリは平年比98～142%（県平均：119%、加賀：120%、能登：119%）と、加賀地域、能登地域のいずれも平年及び前年に比べて長い。
ゆめみづほは、平年比102～128%（県平均118%、加賀：118%、能登：117%）と加賀地域、能登地域いずれも平年に比べ長く、前年に比べやや長い。
ひやくまん穀は、近年比104～138%（県平均：126%、加賀：121%、能登：131%）と加賀地域、能登地域のいずれも近年及び前年より長い。
2. 茎数は、コシヒカリが平年比83～126%（県平均：105%、加賀：101%、能登：111%）と、加賀地域は平年及び前年並、能登地域は平年に比べやや多く前年並。
ゆめみづほは、平年比83～121%（県平均104% 加賀：108%、能登95%）と加賀地域、能登地域のいずれも平年及び前年並。
ひやくまん穀は近年比85～167%（県平均：122%、加賀：106%、能登：144%）と加賀地域で近年及び前年並、能登地域では近年に比べ多く前年並。
3. 葉齢は、コシヒカリが平年比-0.4～+0.8葉（県平均+0.3葉：加賀：+0.2葉、能登：+0.4葉）となっており、平年に比べ加賀地域で1～2日早く、能登地域で2～3日程度早い。
ゆめみづほは平年比-0.2～+0.5葉（県平均：+0.1葉、加賀：+0.1葉、能登：±0.0葉）となっており、加賀地域は平年並～1日程度早く、能登地域は平年並。
ひやくまん穀は近年比-0.5～+1.3葉（県平均：+0.8葉、加賀：+0.3葉、能登：+1.3葉）となっており、加賀地域では近年及び前年に比べ2日程度早く、能登地域で近年に比べ10日程度早く前年に比べ1日程度早い。

4. 葉色の発現は、コシヒカリは平年比-0.7~+0.4（県平均：-0.2、加賀：-0.2、能登-0.2）となっており、平年に比べ0.2淡い。

ゆめみづほは平年比-0.6~+0.8（県平均：-0.2、加賀：-0.2、能登：-0.2）となっており平年に比べ0.2淡い。

ひやくまん穀は近年比±0~+0.6（県平均：±0、加賀：+0.1、能登：+0.1）となっており近年並で前年に比べ0.1濃くなっている。

m²当たり茎数（平年、前年）及び株当たり茎数

コシヒカリ	県平均	480本	（平年比 105%	前年比 96%	）	27.0	本/株
	加賀	479本	（平年比 101%	前年比 95%	）	27.0	本/株
	能登	483本	（平年比 111%	前年比 98%	）	27.1	本/株
ゆめみづほ	県平均	531本	（平年比 104%	前年比 91%	）	29.5	本/株
	加賀	583本	（平年比 108%	前年比 93%	）	33.1	本/株
	能登	425本	（平年比 95%	前年比 86%	）	23.3	本/株
ひやくまん穀	県平均	409本	（近年比 122%	前年比 100%	）	20.5	本/株
	加賀	428本	（近年比 106%	前年比 96%	）	21.5	本/株
	能登	386本	（近年比 144%	前年比 103%	）	19.3	本/株

【病害虫の発生状況】

いもち病の発生は確認されていないが、今後の発生はやや多と予想されている。現在の雑草地における斑点米カメムシ類の発生は平年よりやや多く、斑点米カメムシ類の発生は多と予想されている。

[病害虫発生病害虫発生予報第3号（令和2年6月18日付）参照]

当面の対策

1. 中干し管理の実施

- (1) **中干し**を**継続**し、遅発分げつの発生抑制、籾数過剰防止や乳白粒の発生防止に努める。まだ中干しを行っていない圃場では、直ちに中干しを実施する。
- (2) 用水量が十分確保できない地域においても、根の活力向上を図るため、田面の亀裂が生じない程度に中干しを実施する。
- (3) 5月20日以降に移植が行われたほ場においても、分げつの発生が旺盛となることが見込まれることから、中干しを早急に開始する。
- (4) 中干し効果を高めるため、溝切りを実施する。なお、溝切り間隔はほ場の排水条件に応じ、10~15条間隔とし、末端を排水溝に接続する。

2. 幼穂形成期の水管理

- (1) ゆめみづほでは幼穂が確認（0.1~1.0mm）されており、早生の中干しについては、幼穂形成期（出穂前25日~15日）を迎える6月25日頃までとし、以後、間断通水による飽水管理を行う。
- (2) 幼穂形成期（出穂前25~15日）に18℃未満の最低気温が予想される場合は、水深10cm以上の深水管理とし、不稔籾の発生防止に努める。
○早生品種の耐冷性： 五百万石（弱）、ゆめみづほ（中）、能登ひかり（中）

3. 稲体の健全化を図るため、ケイ酸質資材を未施用のほ場では直ちに施用する。

4. 早生品種の穂肥施用

早生品種で分施肥による施肥管理を行う場合は、幼穂を確認し施用する。
 なお、1回目の穂肥は幼穂1～2mmを確認したうえで施用する。

5. 中後期の雑草防除については、初中期一発剤の効果は1カ月程度であるため、その後品種別の収穫前日数を確認した上で後期除草剤を散布する。

<品種別の収穫前日数の目安>

加賀	田植日	移植後55日	収穫60日前	収穫50日前	収穫45日前	収穫30日前	成熟期 (収穫)
ゆめみづほ			6月23日	7月3日	7月8日	7月23日	8月22日
コシヒカリ	5月3日	6月27日	7月7日	7月17日	7月22日	8月6日	9月5日
ひやくまん穀			7月21日	7月31日	8月5日	8月20日	9月19日

能登	田植日	移植後55日	収穫60日前	収穫50日前	収穫45日前	収穫30日前	成熟期 (収穫)
ゆめみづほ			6月27日	7月7日	7月12日	7月27日	8月26日
能登ひかり	5月4日	6月28日	6月27日	7月7日	7月12日	7月27日	8月26日
コシヒカリ			7月12日	7月22日	7月27日	8月11日	9月10日
ひやくまん穀			7月25日	8月4日	8月9日	8月24日	9月23日

6. 病虫害防除の徹底

(1) いもち病の発生はやや多と予想されており、一旦発生すると急進展する恐れがある。
 発生状況の把握に努め、発病が認められたら直ちに防除する。

① いもち病の箱施薬が行われていないほ場、いもち病の常発地及び葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。

②ひやくまん穀において、葉身が長く草姿が乱れていて、葉色が濃いほ場については箱施薬剤を施用していても、直ちにプロベナゾール粒剤で追加防除を行う。

(2) ひやくまん穀の防除適期はコシヒカリと異なることに留意して基幹防除の計画を作成する。

(3) **紋枯病については、前年発生した圃場、茎数の多いほ場では多発する可能性があるため防除を実施する。薬剤によって散布適期が異なるので、使用薬剤の基準に従う。**

(4) 白葉枯病の防除については、過去に多発した地域で予防剤を箱施薬していない場合は、予防剤を6月20～30日に散布する。

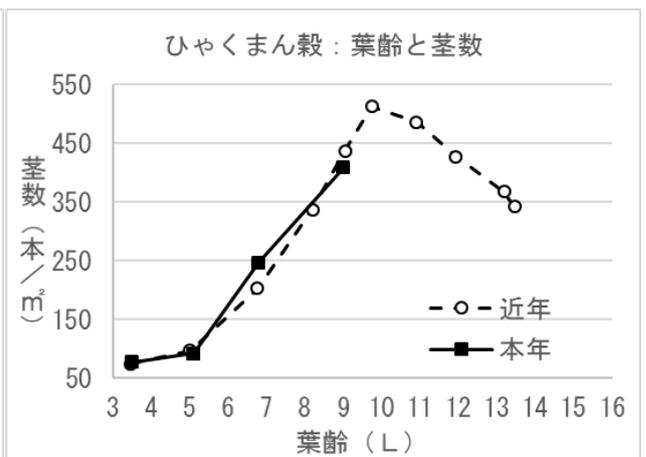
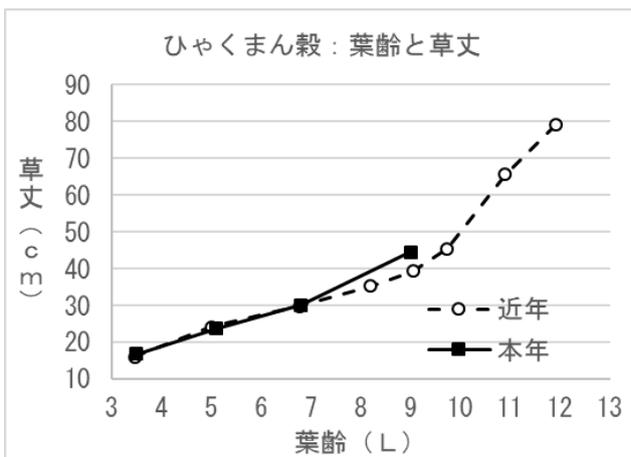
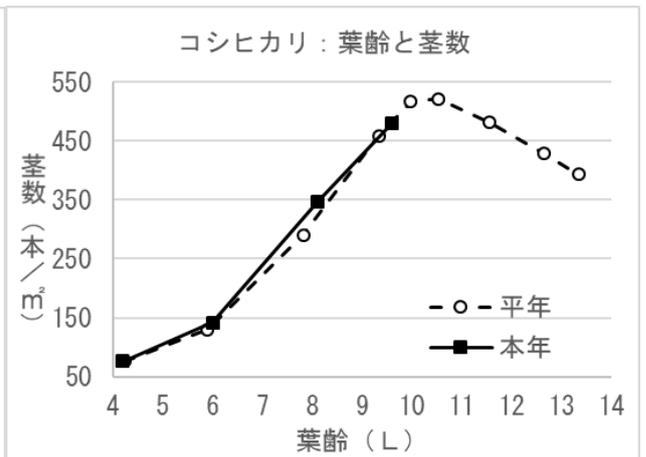
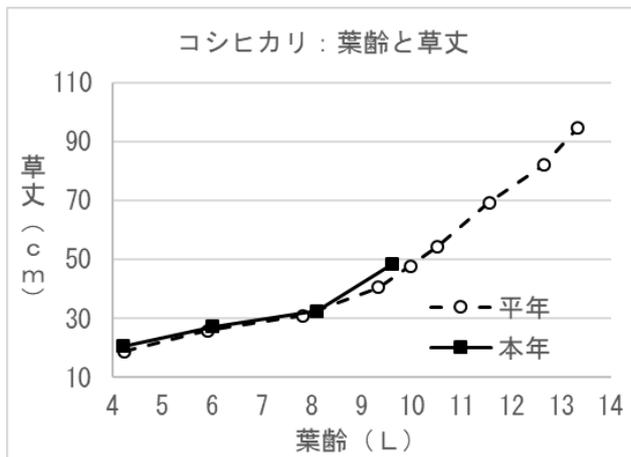
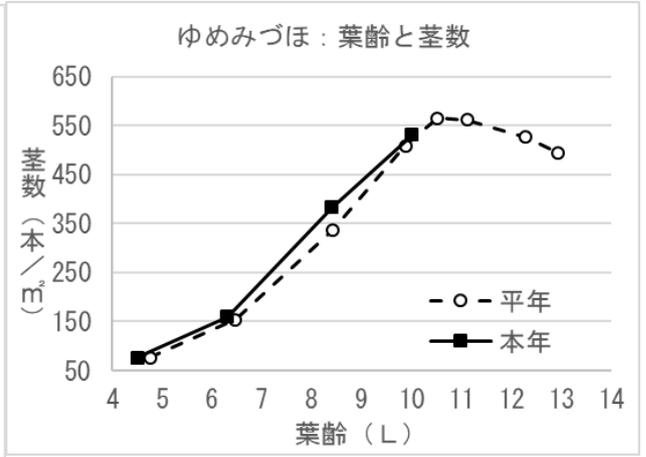
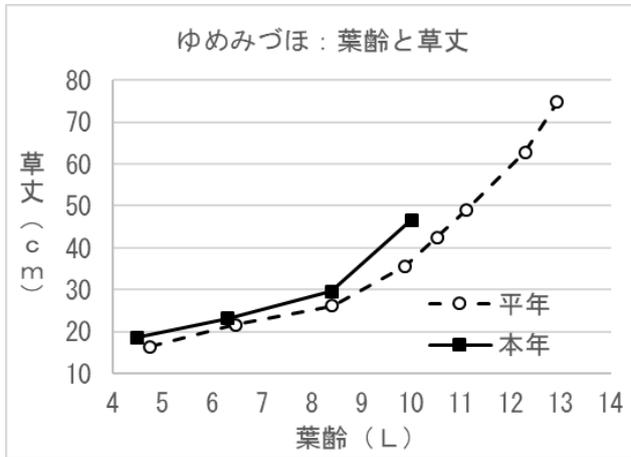
① **大雨により冠・浸水したほ場では、できるだけ早くほ場の排水に努めるとともに、冠水したほ場では病害の発生が懸念されるため、排水後もほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。**

(5) 斑点米カメムシ類の防除については、発生密度を下げるため、生息場所である農道、畦畔、休耕田および遊休地等の除草を徹底する。除草を集落など地域全体で一斉に実施すると密度低下の効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

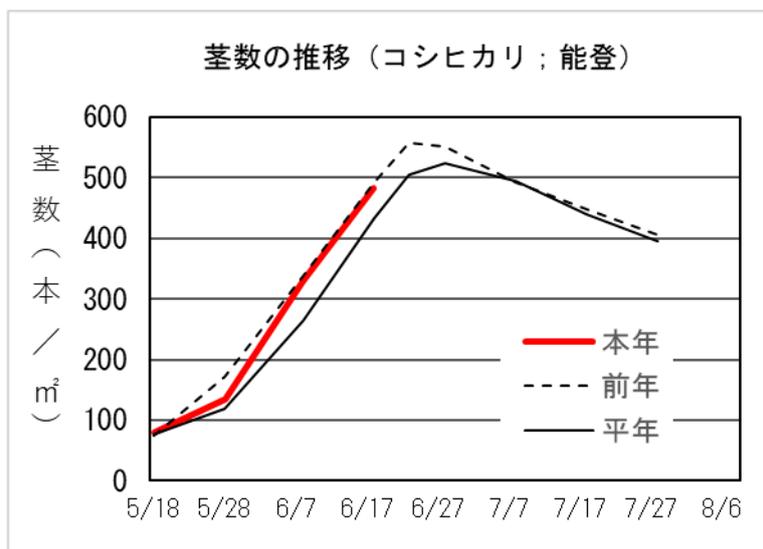
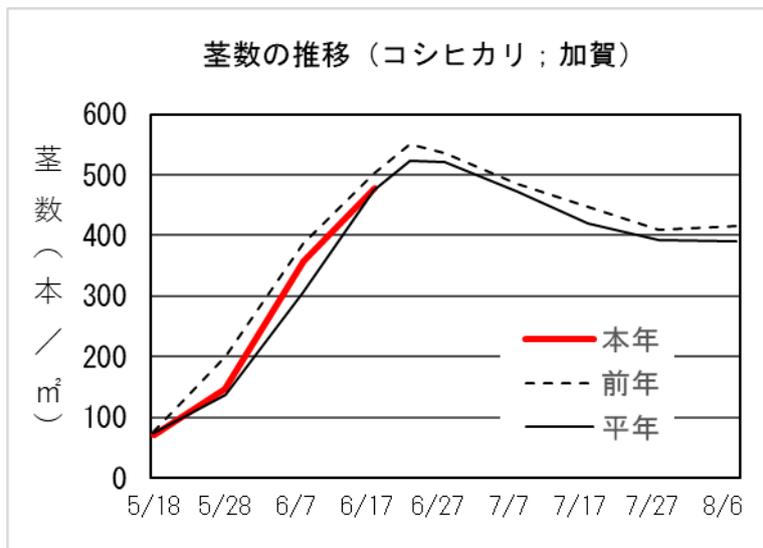
7. 今後も高温が続くと予報されており、いずれの品種も出穂が早まることが予想されることから、適期に収穫を終えられるように共乾施設の運用について早めに検討する。

<参考：草丈の伸長および茎数の増加傾向>

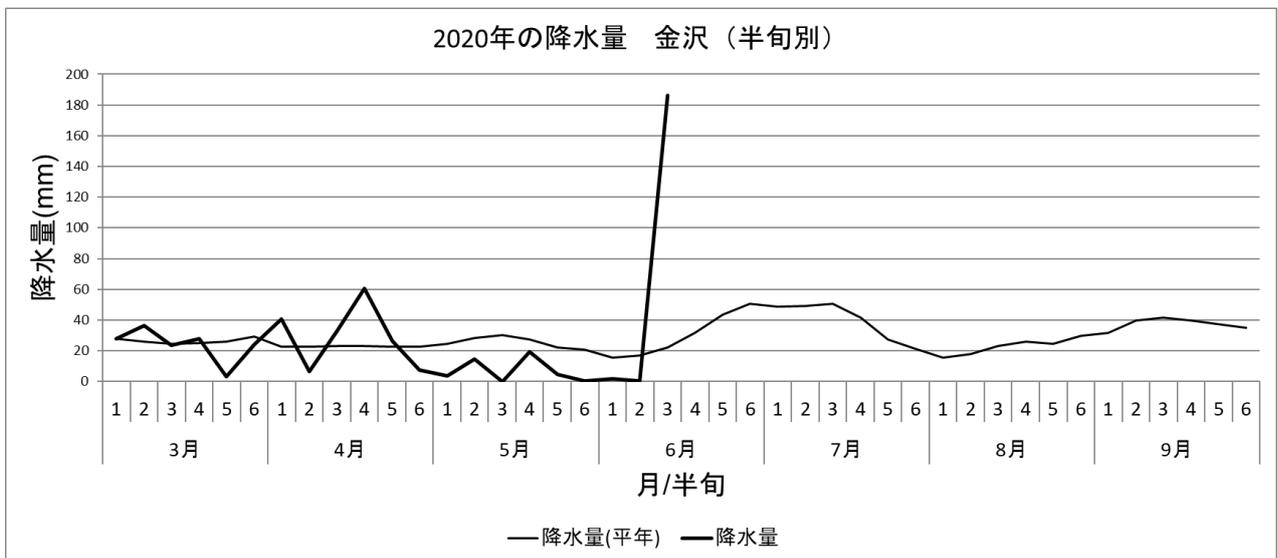
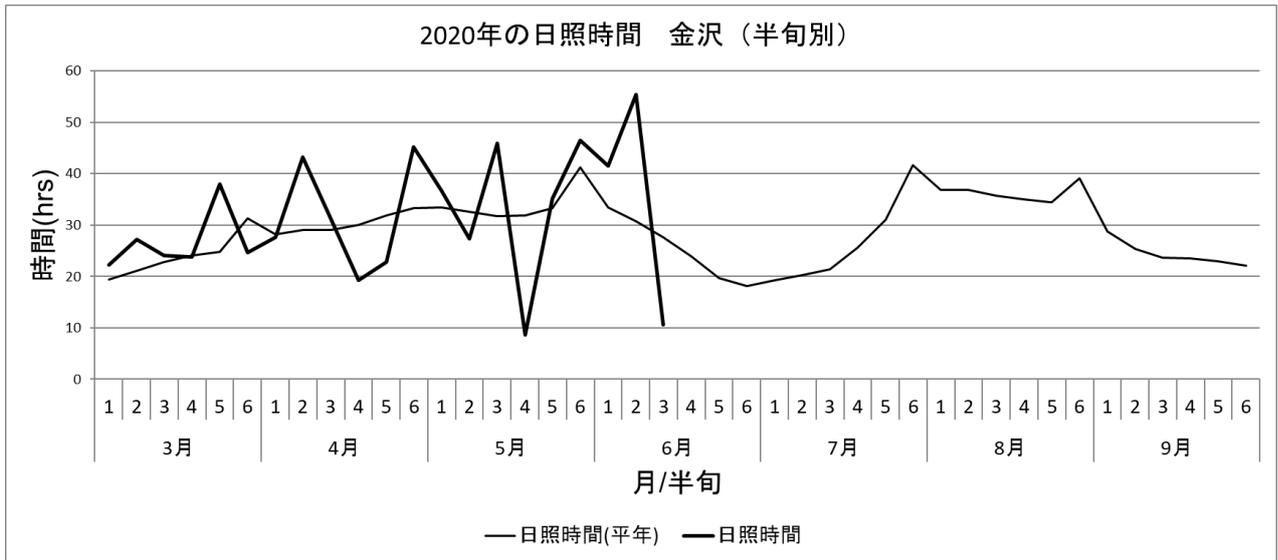
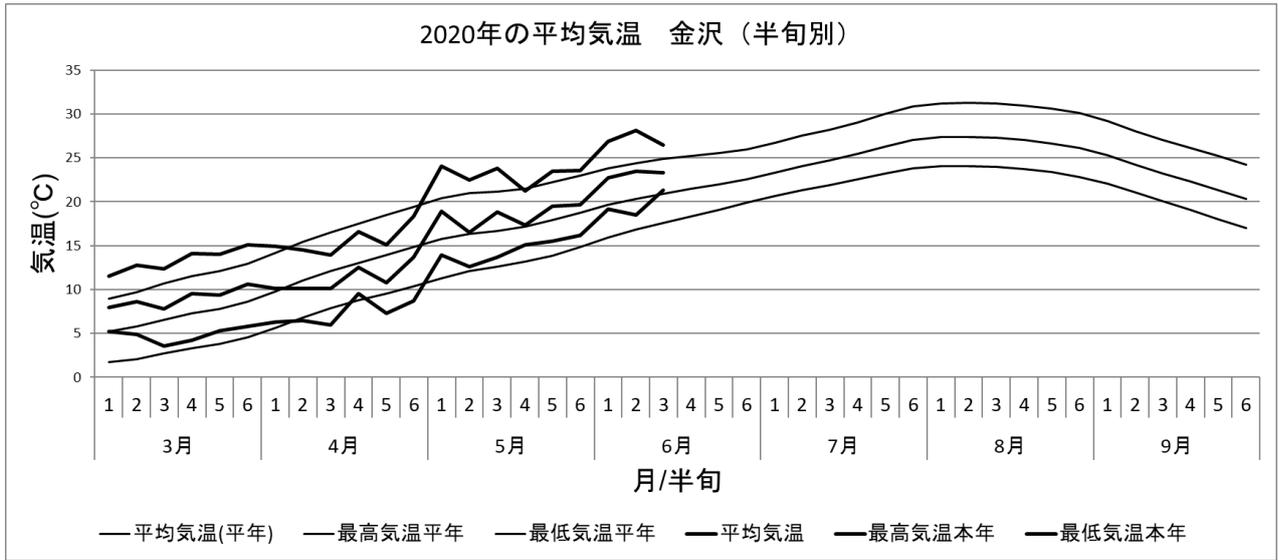
- 葉齢を基に草丈の伸長および茎数の増加を平年と比較すると、
 ゆめみづほの草丈は葉齢展開に比べ伸長しているが、茎数は葉齢展開に見合った本数となっている。
 コシヒカリは葉齢展開に見合った草丈及び茎数となっている。
 ひやくまん穀は草丈は葉齢展開に比べ伸長しているが、茎数は葉齢展開に見合った本数となっており、目標有効茎（360本/m²）は確保できている。



・また、調査日を基にコシヒカリの茎数増加を平年及び前年と比較すると、加賀地域では平年及び前年並、能登地域は平年に比べやや多く前年並となっている。



気象経過イメージ（金沢気象台）



気象経過イメージ (金沢気象台)

